

# 三原のお宝 蔵出しニュース

— 第 59 号 —

## お酒を買うのは徳利で



左からペットボトル (500ml), 五合 (900ml), 一升 (1,800ml), 二升 (3,600ml), 三升 (5,400ml) の徳利です。並べてみると、大きさの違いが分かります。

現在お店などで売られているお酒は、どのような容器に入っているでしょうか。紙パックやガラス瓶に入っていることが多いと思います。

江戸時代から昭和の初め頃にかけて、お酒は、販売店に行って必要な量だけを買う、量り売りで売られていました。その時、お酒の持ち運びに使われた容器が徳利です。「貸し徳利」・「通い徳利」と呼ばれ、酒屋が店の名前が入ったものを貸し出すこともありました。お酒のほかに、醤油・酢・油・みりんといった調味料を買う時にも使われました。

大正時代の終わりごろにはガラス瓶が広く普及しはじめましたが、徳利での販売は続けられました。岡山県備前市、岐阜県多治見市、愛知県瀬戸市、佐賀県有田町といった陶磁器の名産地が徳利の生産を受注していました。

資料館で展示している徳利には、三原の酒蔵の名前が書かれています。大きさによって入る量が違い、一升 (約 1,800ml) 入りがもっとも多く使われました。その他にも五合 (約 900ml), 二升, 三升入りの徳利もありました。



「酔心」の徳利です。くびれた所に縄を結んで持ち運びました。

# 変わり種 おもしろ徳利

資料館には、変わったデザインの徳利があります。京都の祇園祭で街中を巡行する、鉾をモチーフにした徳利です。鉾の上にある緑色の部分が、徳利の栓になっています。車軸もついており、車輪が回るようになっています。

これは昭和40年頃、東広島市の酒蔵である賀茂鶴で、輸出用として使われた徳利です。日本らしさをアピールして海外の人に興味をもってもらうため、デザイン性の高い、色鮮やかな徳利が作られました。

前面や側面には縁起のいい鳳凰を描き、「天水引」と呼ばれる部分には、会社名にちなんでたくさんの鶴が描かれています。底の部分には「JAPANESE FINEST PORCELAIN」（日本の最高級磁器）と書かれ、海外向けに宣伝をしていたことが分かります。海外に日本酒の魅力を伝えるため、様々な工夫をしていたことが見て取れる資料です。この他にも、七福神や金閣寺などをモチーフにした徳利があったそうです。

色彩豊かな徳利は必見です！



高さ約30センチのおもしろ徳利。  
おもちゃのような、可愛いデザインです。



もっと三原のお酒を知りたいときは  
資料館へお越しください！

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/kyouiku/103968.html>

## 《編集後記》

お酒シリーズ第2回は徳利がテーマです。ガラス瓶とは違った、ずっしりとした質感が徳利の魅力だと思います。ぜひ実物を資料館でご覧ください。(み)

## 三原市歴史民俗資料館

三原市円一町2-3-2

TEL0848-62-5595

令和3年8月6日発行

